

北教だより

今年度も残り少なくなりました。年度末を迎え、学習もまとめの時期となつてまいりました。全ての児童生徒が希望をもって進級・進学できるよう、今年度内に学校全体で以下の3点について重点的に取り組むようお願いいたします。

- 1 課題のある学習内容の確実な定着
- 2 今年度の学力向上に向けた取組の成果と課題の振り返り
 - * 「学力向上プラン」を活用し**必ず全職員で共有化**を図ってください。
- 3 次年度の学力向上に向けた取組の計画・立案

これらを推進する資料として、2月12日(木)に実施した「第3回管内学力向上推進協議会」での伝達事項を以下に示します。年度末の総仕上げおよび次年度の準備にご活用ください。

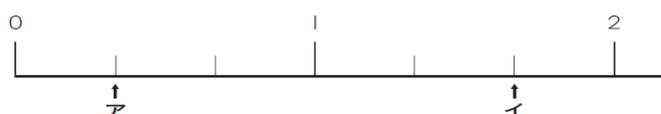
児童生徒の学習状況の分析について

今年度の学習内容の補充や今年度の学力向上に向けた取組の振り返り、また、次年度の計画立案において、現在の学習状況を分析し、成果と課題を明確にすることは不可欠です。そこで、分析手法の一例として、集団の傾向や個人つまづきを把握することに適している「全国学力・学習状況調査」の問題を活用した具体的な分析方法を紹介します。

○全国学力・学習状況調査の問題を活用した分析手法について

(R7 全国学力・学習状況調査 小学校算数科 設問3(3)より)

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



主な解答例		* 数値：県北管内小学校データ		
解答類型1	◎ ア $\frac{1}{3}$ イ $\frac{5}{6}$ ($1\frac{2}{3}$)			27.8%
解答類型2	× ア $\frac{1}{3}$ イ $\frac{5}{6}$			4.0%
解答類型11	× ア、イとも小数			16.2%

解答類型を分析し、児童が**誤答に至った原因**を探る

- ・解答類型2 (4.0%) = **単位分数の捉え方**に課題あり
- ・解答類型11 (16.2%) = **目盛りを分数で表現すること**に課題あり

児童の算数科における集団としての課題を**焦点化**

- ・ **分数の意味や表し方に対する理解**に課題

児童の全ての教科に共通する課題を**焦点化**

- ・用語等の**知識の確実な習得**に課題

次年度の学力向上に向けた取組の計画・立案について

次年度の学力向上に向けた取組の計画・立案をする際には、焦点化された課題をもとに「目指す児童生徒像の設定」や「学校全体で取り組む手立て」を学校全体で共有することが大切です。そこで、「目指す児童生徒像の設定」や「学校全体で取り組む学力向上に向けた手立て」について紹介します。

目指す姿 = **具体的な姿**で

- ・課題を踏まえた上で、**何ができる児童生徒**にするかを学校全体で検討し設定する。



(例) 多くの教科で知識・技能の定着に課題がある場合

「学年に応じて定着させるべき知識・技能を確実に理解することができる」

(教科担当はどの内容を定着させなければならないかを把握する)

学校全体で取り組む学力向上に向けた手立て = 「**目線合わせ**」

- ・具体的で、みんなで取り組める手立てを考える。
 - * 手立ての数は多すぎないようにし、**全員が実施できる手立てに絞る**ことが重要である。
- ・校内研修で手立ての「共有化」「確認」「見直し」等を行う。
 - (例) ・各教科で、既習事項を活用し課題を解決する場面の工夫を図る。(全体で共有化)
 - ・「基礎力アップチャレンジ問題」の分析による定期的な実態把握(確認)

「学力向上プラン」を活用し、学校全体で成果と課題を振り返り、取組の見直し、改善をお願いいたします。